

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	大阪情報コンピュータ専門学校
設置者名	学校法人 大阪経理経済学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
情報処理専門課程	総合情報メディア学科	夜・通信	93 単位	12 単位	
	情報システム開発学科	夜・通信	85 単位	9 単位	
	メディアクリエイト学科	夜・通信	103 単位	9 単位	
	情報処理科	夜・通信	67 単位	6 単位	
	IT ビジネス学科	夜・通信	68 単位	6 単位	
	ゲーム学科	夜・通信	61 単位	6 単位	
	メディアデザイン学科	夜・通信	89 単位	6 単位	
	IT テクニカル学科	夜・通信	76 単位	6 単位	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<p>本校ホームページの「シラバス」ページで公表 https://www.oic.ac.jp/syllabus シラバストップページ →実務経験のある教員による授業科目の学科別合計単位数一覧 →各学科のカリキュラム一覧（実務経験のある教員による授業科目） →科目名 →科目情報 →シラバス</p>
--

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	大阪情報コンピュータ専門学校
設置者名	学校法人 大阪経理経済学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.oic.ac.jp/about/pdf/doc01_dot.pdf

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	新聞社関連企業代表取締役（前職）	平成29年11月15日から 令和3年11月15日まで	学校広報
非常勤	大学教授（現職）	令和元年5月29日から 令和3年11月15日まで	情報教育
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	大阪情報コンピュータ専門学校
設置者名	学校法人 大阪経理経済学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>本校では、観点別に学習成果を明示した卒業認定方針(ディプロマポリシー：DP)に対応して各授業科目のシラバスを作成している。シラバスには「学習一般目標」、「授業の概要及び学習上の助言」に加えて、DPに対応した「学習到達目標」と「学修成果の評価方法」を明示するとともに、学生に対し各授業の初回に説明を行っている。「学習到達目標」については(知識・理解)(思考・判断)(態度)(技能・表現)(関心・意欲)の各観点別教育目標に沿って作成された学部 DP に対応した「学生が達成すべき行動目標」として設定している。</p> <p>また、上記の趣旨、記述方法を記載したシラバス作成のためのガイドラインを定め、講師会等を通じて教員に周知している。作成したシラバスは各授業初回に学生に配布するとともに、WEB サイト上で公開している。</p>	
授業計画書の公表方法	WEB サイト公開 https://www.oic.ac.jp/syllabus
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>学修成果の評価については、学生が達成すべき行動目標である「学習到達目標」の達成度として評価している。評価方法については、授業時間外での学習課題の設定、中間テストの実施、学生の授業への取り組み状況等によって学習意欲の把握を行うとともに、試験、レポート、作品等の方法により総合評価している。評価の実施方法、評価の割合等の詳細をシラバスにおいて明示し、学生が授業に明確な目標をもって臨めるように工夫している。授業科目の成績は 100 点満点で 60 点以上を合格とし単位を付与する。成績評価基準は、秀(90 点以上)、優(80 点以上 90 点未満)、良(70 点以上 80 点未満)、可(60 点以上 70 点未満)、不可(60 点未満)とする。</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本校では、履修科目の成績評価をグレードポイント(GP)に変換し、学修成果の確認や学生の自律的な学修の促進、および学生に対する修学指導等に活用している。算定方法は学生に明示しており、学生の単位取得票や成績証明書に表示され、学内奨学生や優秀者の選定における客観的な指標として活用している。</p> <p>GPAの算定方法は以下の通りである。</p> $\frac{4.0 \times \text{秀の修得単位数} + 3.0 \times \text{優の修得単位数} + 2.0 \times \text{良の修得単位数} + 1.0 \times \text{可の修得単位数}}{\text{総履修登録単位数(「不可」の単位数を含む)}}$ <p>この算定方法は「修学の手引き」に明記しており、「修学の手引き」はWEBサイトに公開している。</p> <p>学科・学年のGPA分布状況は、前期・後期の成績評価後統計化し、学生の授業理解度や修学状況を適切に把握している。</p>	
客観的な指標の算出方法の公表方法	http://www.oic.ac.jp/about/disclosure.html 「修学の手引き」 5. GPA(成績係数)について
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>課程修了にあたって、学生が修得することが求められている知識・技能・態度等の観点別に学習成果を明示した卒業の認定方針(DP)を5項目として策定している。この認定方針は修学の手引きに明示し、Webサイトに公表するとともに、オリエンテーション等を通じて学生に周知している。卒業の認定はDPと各授業の到達目標の整合性を担保するカリキュラムマップの作成、DP項目に対応して学習到達目標を設定したシラバスによる授業展開と適切な成績評価に基づいて行っている。また、卒業の認定方針のより実践的な職業教育への具体化のために、iCD(i コンピテンシーディクショナリ)をベースとして各専門分野での職種を意識した教育課程を開発するなど継続して改善を行っている。</p> <p>卒業判定は本校学務課が各学科の卒業要件に基づき卒業判定案を作成、校長が主催する会議の審議を経て、校長が卒業を認定している。</p>	
卒業の認定に関する方針の公表方法	http://www.oic.ac.jp/about/disclosure.html 「修学の手引き」 II. 卒業に際した称号授与の方針 14. 卒業の認定

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	大阪情報コンピュータ専門学校
設置者名	学校法人大阪経理経済学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	http://www.oic.ac.jp/about/disclosure.html
収支計算書又は損益計算書	http://www.oic.ac.jp/about/disclosure.html
財産目録	http://www.oic.ac.jp/about/disclosure.html
事業報告書	http://www.oic.ac.jp/about/disclosure.html
監事による監査報告（書）	http://www.oic.ac.jp/about/disclosure.html

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士
工業		情報処理専門課程	総合情報メディア学科 (単位制)		○
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類		
			講義	演習	実習
4年	昼	124 単位時間/単位	89/単位 単位時間	494/単位 単位時間	583 単位時間/単位
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
480人	603人	14人	10人	19人	29人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>本校では、観点別に学習成果を明示した卒業認定方針(ディプロマポリシー：DP)に対応して各授業科目のシラバスを作成している。シラバスには「学習一般目標」、「授業の概要及び学習上の助言」に加えて、DPに対応した「学習到達目標」と「学修成果の評価方法」を明示するとともに、学生に対し各授業の初回に説明を行っている。「学習到達目標」については（知識・理解）（思考・判断）（態度）（技能・表現）（関心・意欲）の各観点別教育目標に沿って作成された学部DPに対応した「学生が達成すべき行動目標」として設定している。</p> <p>また、上記の趣旨、記述方法を記載したシラバス作成のためのガイドラインを定め、講師会等を通じて教員に周知している。作成したシラバスは各授業初回に学生に配布するとともに、WEBサイト上で公開している。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>学修成果の評価については、学生が達成すべき行動目標である「学習到達目標」の達成度として評価している。評価方法については、授業時間外での学習課題の設定、中間テストの実施、学生の授業への取り組み状況等によって学習意欲の把握を行うとともに、試験、レポート、作品等の方法により総合評価している。評価の実施方法、評価の割合等の詳細をシラバスにおいて明示し、学生が授業に明確な目標をもって臨めるように工夫し</p>

<p>ている。授業科目の成績は100点満点で60点以上を合格とし単位を付与する。成績評価基準は、秀(90点以上)、優(80点以上90点未満)、良(70点以上80点未満)、可(60点以上70点未満)、不可(60点未満)とする。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要)</p> <p>課程修了にあたって、学生が修得することが求められている知識・技能・態度等の観点別に学習成果を明示した卒業の認定方針(DP)を5項目として策定している。この認定方針は修学の手引きに明示し、Webサイトに公表するとともに、オリエンテーション等を通じて学生に周知している。卒業の認定はDPと各授業の到達目標の整合性を担保するカリキュラムマップの作成、DP項目に対応して学習到達目標を設定したシラバスによる授業展開と適切な成績評価に基づいて行っている。また、卒業の認定方針のより実践的な職業教育への具体化のために、iCD(i コンピテンシーディクショナリ)をベースとして各専門分野での職種を意識した教育課程を開発するなど継続して改善を行っている。</p> <p>卒業判定は本校学務課が学科の卒業要件に基づき卒業判定案を作成、校長が主催する会議の審議を経て、校長が卒業を認定している。</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>クラス担任制度を導入し、ゼミナールを通じて学修指導を実施、個人の修学状況を踏まえた個別指導を実施している。特に新入生に対しては、一泊合宿を実施し、将来の職種を見据えた学習へのアプローチとスケジュールを説明している。授業への出席状況は日々、把握し、欠席者には本人への指導、可能な限り保護者との三者面談を実施する等、学業継続に向けて支援している。前後期終了後には学生保護者に成績、出席状況報告を郵送する等、保護者と連携した学生支援を実施している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
111人 (100%)	人 (%)	98人 (88.3%)	13人 (11.7%)
(主な就職、業界等)			
IT・情報処理分野、ゲーム・映像業界 富士通エフ・アイ・ピーDC(株) インテグレートトータルシステム(株) (株)カプコン Pro-X(株) (株)アサヒディード 旭情報サービス(株) (株)エディオン トップラン・フォームズ・オペレーション(株) (株)日本トラフィックサービス 上新電機(株) ナビオコンピュータ(株) イオンリテール(株) (株)ケー・エス・ディー (株)日本総研情報サービス等			
(就職指導内容)			
【卒業前年度】			
キャリア教育の一環として、卒業前年度の1年間を通じてクラス担任による就職特別指導の時間枠を設け、自己理解の深化、進路選択における価値観の確立、将来設計の立案等、進路実現のための支援を行うとともに、「就職試験対策」、「履歴書作成」、「面接対策」等の指導を実施している。			
就活スタート時の意識づけのための「キャリアガイダンス」をはじめとして、就活力の確認や就活力をアップするための「キャリアブートキャンプ(1泊)」、業界・職種研究のための「業界研究セミナー」、専門分野に特化した「ポートフォリオ・面接指導」等を適切な時期に実施している。			
【卒業年度】			

<p>キャリア支援委員会とクラス担任は、一人ひとりの学生の就活準備状況に応じて順次、内定可能な企業への受験指導を実施している。また、就職支援システムの情報を活用して、各学生の就活状況を日々把握するとともに、「個人別」・「個別」に適切な就職受験指導を行い、確実な内定に結び付けている。</p> <p>内定可能な企業を学内合同/単独企業説明会へ誘致、また、学校紹介企業を学生に紹介し、学生の企業受験・内定に結び付けている。また、企業訪問を中心とした企業連携を深めることで、学内合同/単独企業説明会への誘致企業や学校紹介企業は、学生数に対応した十分な企業数を確保している。</p>
<p>(主な学修成果(資格・検定等))</p> <p>基本情報技術者、応用情報技術者、情報処理安全確保支援士</p>
<p>(備考)(任意記載事項)</p> <p>2年生以上を対象とした学内奨学金制度有 特別奨励奨学金制度(20万円・15名) 学業支援奨学金制度(10万円・35名)</p>

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
561人	18人	3.2%
(中途退学の主な理由) 専門分野の学業不振、集団生活への不適応、進路変更(就職・他校への進学)		
(中退防止・中退者支援のための取組)		
<p>学生支援は学生生活指導委員会、クラス担任を中心に日々の状況を把握し、学習目標の実現に向けて適切な支援をしている。</p> <p>具体的には学生との個別面談、日々の出席状況・成績状況のチェック、授業担当との連携、保護者への連絡と連携を基本としている。これは入学時から就職活動期間、卒業時まで継続され、きめ細かなサポート体制を取っている。</p> <p>精神的な悩みや対人関係がうまくいかない等の問題を抱える学生に対しては、上記の対応以外に専門のカウンセラーが面談を行い、必要に応じて専門機関につなぐといった対応を取っている。</p> <p>そのほかにも女子新入生歓迎会や留学生交流会の開催、あるいは障がいを持つ学生への配慮等、多様な学生が学業をやり遂げることができるよう支援している。</p>		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		情報処理専門課程	情報システム開発学科 (単位制)	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	90 単位時間/単位	単位時間 57/単位	単位時間 208/単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			265 単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
120人	198人	13人	3人	7人	10人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要)</p> <p>本校では、観点別に学習成果を明示した卒業認定方針(ディプロマポリシー: DP)に対応して各授業科目のシラバスを作成している。シラバスには「学習一般目標」、「授業の概要及び学習上の助言」に加えて、DPに対応した「学習到達目標」と「学修成果の評価方法」を明示するとともに、学生に対し各授業の初回に説明を行っている。「学習到達目標」については(知識・理解)(思考・判断)(態度)(技能・表現)(関心・意欲)の各観点別教育目標に沿って作成された学部 DP に対応した「学生が達成すべき行動目標」として設定している。</p> <p>また、上記の趣旨、記述方法を記載したシラバス作成のためのガイドラインを定め、講師会等を通じて教員に周知している。作成したシラバスは各授業初回に学生に配布するとともに、WEB サイト上で公開している。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <p>学修成果の評価については、学生が達成すべき行動目標である「学習到達目標」の達成度として評価している。評価方法については、授業時間外での学習課題の設定、中間テストの実施、学生の授業への取り組み状況等によって学習意欲の把握を行うとともに、試験、レポート、作品等の方法により総合評価している。評価の実施方法、評価の割合等の詳細をシラバスにおいて明示し、学生が授業に明確な目標をもって臨めるように工夫している。授業科目の成績は100点満点で60点以上を合格とし単位を付与する。成績評価基準は、秀(90点以上)、優(80点以上90点未満)、良(80点未満70点以上)、可(60点以上70点未満)、不可(60点未満)とする。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>課程修了にあたって、学生が修得することが求められている知識・技能・態度等の観点別に学習成果を明示した卒業の認定方針(DP)を5項目として策定している。この認定方針は修学の手引きに明示し、Web サイトに公表するとともに、オリエンテーション等を通じて学生に周知している。卒業の認定はDPと各授業の到達目標の整合性を担保するカリキュラムマップの作成、DP項目に対応して学習到達目標を設定したシラバスによる授業展開と適切な成績評価に基づいて行っている。また、卒業の認定方針のより実践的な職業教育への具体化のために、iCD(i コンピテンシーディクショナリ)をベースとして各専門分野での職種を意識した教育課程を開発するなど継続して改善を行っている。</p> <p>卒業判定は本校学務課が学科の卒業要件に基づき卒業判定案を作成、校長が主催する会議の審議を経て、校長が卒業を認定している。</p>
学修支援等

<p>(概要)</p> <p>クラス担任制度を導入し、全学年でゼミナールを通じて学修指導を実施、個人の修学状況を踏まえた個別指導を実施している。特に新入生に対しては、一泊合宿を実施し、将来の職種を見据えた学習へのアプローチとスケジュールを説明している。授業への出席状況は日々、把握し、週間、月間で学生への指導と保護者への出席状況報告等を実施している。また、保護者含めた三者面談を実施する等、学業継続に向けて支援している。前後期終了後には学生保護者に成績、出席状況報告を郵送する等、保護者と連携した学生支援を実施している。</p>
--

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
36人 (100%)	人 (%)	34人 (94.4%)	2人 (5.6%)
<p>(主な就職、業界等)</p> <p>IT・情報処理分野</p> <p>リコージャパン(株) (株)ヨドバシカメラ(株)アドウェイズ(株)ケー・エス・ディー(株)インテックソリューションパワー(株)キーマネジメントソリューションズ(株)デザインシステムサービス Pro-X(株) ミニコン・コンサルティング(株) (株)オールシステム 八光通商(株) (株)ビービーシステム(株)シー・アイ・シー ナビオコンピュータ(株) (株)日本トラフィックサービス等</p>			
<p>(就職指導内容)</p> <p>【卒業前年度】</p> <p>キャリア教育の一環として、卒業前年度の1年間を通じてクラス担任による就職特別指導の時間枠を設け、自己理解の深化、進路選択における価値観の確立、将来設計の立案等、進路実現のための支援を行うとともに、「就職試験対策」、「履歴書作成」、「面接対策」等の指導を実施している。</p> <p>就活スタート時の意識づけのための「キャリアガイダンス」をはじめとして、就活力の確認や就活力をアップするための「キャリアブートキャンプ(1泊)」、業界・職種研究のための「業界研究セミナー」、専門分野に特化した「ポートフォリオ・面接指導」等を適切な時期に実施している。</p> <p>【卒業年度】</p> <p>キャリア支援委員会とクラス担任は、一人ひとりの学生の就活準備状況に応じて順次、内定可能な企業への受験指導を実施している。また、就職支援システムの情報を活用して、各学生の就活状況を日々把握するとともに、「個人別」・「個別」に適切な就職受験指導を行い、確実な内定に結び付けている。</p> <p>内定可能な企業を学内合同/単独企業説明会へ誘致、また、学校紹介企業を学生に紹介し、学生の企業受験・内定に結び付けている。また、企業訪問を中心とした企業連携を深めることで、学内合同/単独企業説明会への誘致企業や学校紹介企業は、学生数に対応した十分な企業数を確保している。</p>			
<p>(主な学修成果(資格・検定等))</p> <p>基本情報技術者、ITパスポート、C言語プログラミング能力認定試験</p>			
<p>(備考)(任意記載事項)</p> <p>2年生以上を対象とした学内奨学金制度有 特別奨励奨学金制度(20万円・15名) 学業支援奨学金制度(10万円・35名)</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
162 人	10 人	6.2%
<p>(中途退学の主な理由) 専門分野の学業不振、集団生活への不適応、進路変更（就職・他校への進学）</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>学生支援は学生生活指導委員会、クラス担任を中心に日々の状況を把握し、学習目標の実現に向けて適切な支援をしている。</p> <p>具体的には学生との個別面談、日々の出席状況・成績状況のチェック、授業担当との連携、保護者への連絡と連携を基本としている。これは入学時から就職活動期間、卒業時まで継続され、きめ細かなサポート体制を取っている。</p> <p>精神的な悩みや対人関係がうまくいかない等の問題を抱える学生に対しては、上記の対応以外に専門のカウンセラーが面談を行い、必要に応じて専門機関につなぐといった対応を取っている。</p> <p>そのほかにも女子新入生歓迎会や留学生交流会の開催、あるいは障がいを持つ学生への配慮等、多様な学生が学業をやり遂げることができるよう支援している。</p>		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		情報処理専門課程	メディアクリエイト学科 (単位制)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	90 単位時間/単位	単位時間 69/単位	単位時間 436/単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			505 単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
120人	207人	6人	3人	8人	11人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要)</p> <p>本校では、観点別に学習成果を明示した卒業認定方針(ディプロマポリシー: DP)に対応して各授業科目のシラバスを作成している。シラバスには「学習一般目標」、「授業の概要及び学習上の助言」に加えて、DPに対応した「学習到達目標」と「学修成果の評価方法」を明示するとともに、学生に対し各授業の初回に説明を行っている。「学習到達目標」については(知識・理解)(思考・判断)(態度)(技能・表現)(関心・意欲)の各観点別教育目標に沿って作成された学部 DP に対応した「学生が達成すべき行動目標」として設定している。</p> <p>また、上記の趣旨、記述方法を記載したシラバス作成のためのガイドラインを定め、講師会等を通じて教員に周知している。作成したシラバスは各授業初回に学生に配布するとともに、WEB サイト上で公開している。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <p>学修成果の評価については、学生が達成すべき行動目標である「学習到達目標」の達成度として評価している。評価方法については、授業時間外での学習課題の設定、中間テストの実施、学生の授業への取り組み状況等によって学習意欲の把握を行うとともに、試験、レポート、作品等の方法により総合評価している。評価の実施方法、評価の割合等の詳細をシラバスにおいて明示し、学生が授業に明確な目標をもって臨めるように工夫している。授業科目の成績は100点満点で60点以上を合格とし単位を付与する。成績評価基準は、秀(90点以上)、優(80点以上 90点未満)、良(70点以上 80点未満)、可(60点以上 70点未満)、不可(60点未満)とする。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>課程修了にあたって、学生が修得することが求められている知識・技能・態度等の観点別に学習成果を明示した卒業の認定方針(DP)を5項目として策定している。この認定方針は修学の手引きに明示し、Web サイトに公表するとともに、オリエンテーション等を通じて学生に周知している。卒業の認定はDPと各授業の到達目標の整合性を担保するカリキュラムマップの作成、DP項目に対応して学習到達目標を設定したシラバスによる授業展開と適切な成績評価に基づいて行っている。また、卒業の認定方針のより実践的な職業教育への具体化のために、iCD(i コンピテンシーディクショナリ)をベースとして各専門分野での職種を意識した教育課程を開発するなど継続して改善を行っている。</p> <p>卒業判定は本校学務課が学科の卒業要件に基づき卒業判定案を作成、校長が主催する会議の審議を経て、校長が卒業を認定している。</p>

学修支援等
(概要) クラス担任制度を導入し、全学年でゼミナールを通じて学修指導を実施、個人の修学状況を踏まえた個別指導を実施している。特に新入生に対しては、一泊合宿を実施し、将来の職種を見据えた学習へのアプローチとスケジュールを説明している。授業への出席状況は日々、把握し、週間、月間で学生への指導と保護者への出席状況報告等を実施している。また、保護者含めた三者面談を実施する等、学業継続に向けて支援している。前後期終了後には学生保護者に成績、出席状況報告を郵送する等、保護者と連携した学生支援を実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
56人 (100%)	人 (%)	44人 (78.6%)	12人 (21.4%)

(主な就職、業界等)
 IT・情報処理分野、ゲーム・デザイン業界
 (株)カプコン、(株)トーセ、(株)エスユーエス、ナビオコンピュータ(株)、(株)インテックソリューションパワー、(株)日本ビジネス開発、タイムテック(株)、(株)コスモネット、レイシスソフトウェアサービス(株)、(株)HAL、(株)ウイルテック、フジアルテ(株)、(株)イービーエム、大阪電気工業(株)、(株)ヨドバシカメラ等

(就職指導内容)
【卒業前年度】
 キャリア教育の一環として、卒業前年度の1年間を通じてクラス担任による就職特別指導の時間枠を設け、自己理解の深化、進路選択における価値観の確立、将来設計の立案等、進路実現のための支援を行うとともに、「就職試験対策」、「履歴書作成」、「面接対策」等の指導を実施している。
 就活スタート時の意識づけのための「キャリアガイダンス」をはじめとして、就活力の確認や就活力をアップするための「キャリアブートキャンプ(1泊)」、業界・職種研究のための「業界研究セミナー」、専門分野に特化した「ポートフォリオ・面接指導」等を適切な時期に実施している。

【卒業年度】
 キャリア支援委員会とクラス担任は、一人ひとりの学生の就活準備状況に応じて順次、内定可能な企業への受験指導を実施している。また、就職支援システムの情報を活用して、各学生の就活状況を日々把握するとともに、「個人別」・「個別」に適切な就職受験指導を行い、確実な内定に結び付けている。
 内定可能な企業を学内合同/単独企業説明会へ誘致、また、学校紹介企業を学生に紹介し、学生の企業受験・内定に結び付けている。また、企業訪問を中心とした企業連携を深めることで、学内合同/単独企業説明会への誘致企業や学校紹介企業は、学生数に対応した十分な企業数を確保している。

(主な学修成果(資格・検定等))
 基本情報技術者、ITパスポート、C言語プログラミング能力認定試験、CGクリエイター検定

(備考) (任意記載事項)
 2年生以上を対象とした学内奨学金制度有
 特別奨励奨学金制度(20万円・15名)
 学業支援奨学金制度(10万円・35名)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
206 人	13 人	6.3%
<p>(中途退学の主な理由) 専門分野の学業不振、集団生活への不適応、進路変更（就職・他校への進学）</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>学生支援は学生生活指導委員会、クラス担任を中心に日々の状況を把握し、学習目標の実現に向けて適切な支援をしている。</p> <p>具体的には学生との個別面談、日々の出席状況・成績状況のチェック、授業担当との連携、保護者への連絡と連携を基本としている。これは入学時から就職活動期間、卒業時まで継続され、きめ細かなサポート体制を取っている。</p> <p>精神的な悩みや対人関係がうまくいかない等の問題を抱える学生に対しては、上記の対応以外に専門のカウンセラーが面談を行い、必要に応じて専門機関につなぐといった対応を取っている。</p> <p>そのほかにも女子新入生歓迎会や留学生交流会の開催、あるいは障がいを持つ学生への配慮等、多様な学生が学業をやり遂げることができるよう支援している。</p>		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		情報処理専門課程	情報処理学科 (単位制)	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	62 単位時間/単位	単位時間 49/単位	単位時間 156/単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			205 単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
80人	54人	8人	2人	1人	3人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 本校では、観点別に学習成果を明示した卒業認定方針(ディプロマポリシー: DP)に対応して各授業科目のシラバスを作成している。シラバスには「学習一般目標」、「授業の概要及び学習上の助言」に加えて、DPに対応した「学習到達目標」と「学修成果の評価方法」を明示するとともに、学生に対し各授業の初回に説明を行っている。「学習到達目標」については(知識・理解)(思考・判断)(態度)(技能・表現)(関心・意欲)の各観点別教育目標に沿って作成された学部 DP に対応した「学生が達成すべき行動目標」として設定している。 また、上記の趣旨、記述方法を記載したシラバス作成のためのガイドラインを定め、講師会等を通じて教員に周知している。作成したシラバスは各授業初回に学生に配布するとともに、WEB サイト上で公開している。
成績評価の基準・方法
(概要) 学修成果の評価については、学生が達成すべき行動目標である「学習到達目標」の達成度として評価している。評価方法については、授業時間外での学習課題の設定、中間テストの実施、学生の授業への取り組み状況等によって学習意欲の把握を行うとともに、試験、レポート、作品等の方法により総合評価している。評価の実施方法、評価の割合等の詳細をシラバスにおいて明示し、学生が授業に明確な目標をもって臨めるように工夫している。授業科目の成績は100点満点で60点以上を合格とし単位を付与する。成績評価基準は、秀(90点以上)、優(80点以上90点未満)、良(70点以上80点未満)、可(60点以上70点未満)、不可(60点未満)とする。
卒業・進級の認定基準
(概要) 課程修了にあたって、学生が修得することが求められている知識・技能・態度等の観点別に学習成果を明示した卒業の認定方針(DP)を5項目として策定している。この認定方針は修学の手引きに明示し、Web サイトに公表するとともに、オリエンテーション等を通じて学生に周知している。卒業の認定はDPと各授業の到達目標の整合性を担保するカリキュラムマップの作成、DP項目に対応して学習到達目標を設定したシラバスによる授業展開と適切な成績評価に基づいて行っている。また、卒業の認定方針のより実践的な職業教育への具体化のために、iCD(i コンピテンシーディクショナリ)をベースとして各専門分野での職種を意識した教育課程を開発するなど継続して改善を行っている。 卒業判定は本校学務課が学科の卒業要件に基づき卒業判定案を作成、校長が主催する会議の審議を経て、校長が卒業を認定している。
学修支援等

<p>(概要)</p> <p>クラス担任制度を導入し、全学年でゼミナールを通じて学修指導を実施、個人の修学状況を踏まえた個別指導を実施している。特に新入生に対しては、一泊合宿を実施し、将来の職種を見据えた学習へのアプローチとスケジュールを説明している。授業への出席状況は日々、把握し、週間、月間で学生への指導と保護者への出席状況報告等を実施している。また、保護者含めた三者面談を実施する等、学業継続に向けて支援している。前後期終了後には学生保護者に成績、出席状況報告を郵送する等、保護者と連携した学生支援を実施している。</p>
--

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
32人 (100%)	4人 (12.5%)	23人 (71.9%)	5人 (15.6%)
<p>(主な就職、業界等)</p> <p>IT・情報処理分野</p> <p>(株) テイジエール、(株) アサヒディード、(株) フジテレコムズ、(株) ナック、(株) 日本トラフィックサービス、(株) ケー・エス・ディー、(株) ワールドインテック、日本電算(株)、ナビオコンピュータ(株)、(株) パーソナック、(株) ダイワ・セキュリティー・システム、サービスアンドセキュリティ(株)、(株) 大日工業、(株) ローソン、アイスター(株) 等</p>			
<p>(就職指導内容)</p> <p>【卒業前年度】</p> <p>キャリア教育の一環として、卒業前年度の1年間を通じてクラス担任による就職特別指導の時間枠を設け、自己理解の深化、進路選択における価値観の確立、将来設計の立案等、進路実現のための支援を行うとともに、「就職試験対策」、「履歴書作成」、「面接対策」等の指導を実施している。</p> <p>就活スタート時の意識づけのための「キャリアガイダンス」をはじめとして、就活力の確認や就活力をアップするための「キャリアブートキャンプ(1泊)」、業界・職種研究のための「業界研究セミナー」、専門分野に特化した「ポートフォリオ・面接指導」等を適切な時期に実施している。</p> <p>【卒業年度】</p> <p>キャリア支援委員会とクラス担任は、一人ひとりの学生の就活準備状況に応じて順次、内定可能な企業への受験指導を実施している。また、就職支援システムの情報を活用して、各学生の就活状況を日々把握するとともに、「個人別」・「個別」に適切な就職受験指導を行い、確実な内定に結び付けている。</p> <p>内定可能な企業を学内合同/単独企業説明会へ誘致、また、学校紹介企業を学生に紹介し、学生の企業受験・内定に結び付けている。また、企業訪問を中心とした企業連携を深めることで、学内合同/単独企業説明会への誘致企業や学校紹介企業は、学生数に対応した十分な企業数を確保している。</p>			
<p>(主な学修成果(資格・検定等))</p> <p>基本情報技術者、ITパスポート、C言語プログラミング能力認定試験</p>			
<p>(備考) (任意記載事項)</p> <p>2年生以上を対象とした学内奨学金制度有</p> <p>特別奨励奨学金制度(20万円・15名)</p> <p>学業支援奨学金制度(10万円・35名)</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
68人	9人	13.2%
<p>(中途退学の主な理由) 専門分野の学業不振、集団生活への不適応、進路変更（就職・他校への進学）</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>学生支援は学生生活指導委員会、クラス担任を中心に日々の状況を把握し、学習目標の実現に向けて適切な支援をしている。</p> <p>具体的には学生との個別面談、日々の出席状況・成績状況のチェック、授業担当との連携、保護者への連絡と連携を基本としている。これは入学時から就職活動期間、卒業時まで継続され、きめ細かなサポート体制を取っている。</p> <p>精神的な悩みや対人関係がうまくいかない等の問題を抱える学生に対しては、上記の対応以外に専門のカウンセラーが面談を行い、必要に応じて専門機関につなぐといった対応を取っている。</p> <p>そのほかにも女子新入生歓迎会や留学生交流会の開催、あるいは障がいを持つ学生への配慮等、多様な学生が学業をやり遂げることができるよう支援している。</p>		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		情報処理専門課程	IT テクニカル学科 (単位制)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	62 単位時間/単位	単位時間 51/単位	単位時間 168/単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			219 単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
80人	42人	4人	2人	1人	3人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 本校では、観点別に学習成果を明示した卒業認定方針(ディプロマポリシー：DP)に対応して各授業科目のシラバスを作成している。シラバスには「学習一般目標」、「授業の概要及び学習上の助言」に加えて、DPに対応した「学習到達目標」と「学修成果の評価方法」を明示するとともに、学生に対し各授業の初回に説明を行っている。「学習到達目標」については(知識・理解)(思考・判断)(態度)(技能・表現)(関心・意欲)の各観点別教育目標に沿って作成された学部DPに対応した「学生が達成すべき行動目標」として設定している。 また、上記の趣旨、記述方法を記載したシラバス作成のためのガイドラインを定め、講師会等を通じて教員に周知している。作成したシラバスは各授業初回に学生に配布するとともに、WEBサイト上で公開している。
成績評価の基準・方法
(概要) 学修成果の評価については、学生が達成すべき行動目標である「学習到達目標」の達成度として評価している。評価方法については、授業時間外での学習課題の設定、中間テストの実施、学生の授業への取り組み状況等によって学習意欲の把握を行うとともに、試験、レポート、作品等の方法により総合評価している。評価の実施方法、評価の割合等の詳細をシラバスにおいて明示し、学生が授業に明確な目標をもって臨めるように工夫している。授業科目の成績は100点満点で60点以上を合格とし単位を付与する。成績評価基準は、秀(90点以上)、優(80点以上90点未満)、良(70点以上80点未満)、可(60点以上70点未満)、不可(60点未満)とする。
卒業・進級の認定基準
(概要) 課程修了にあたって、学生が修得することが求められている知識・技能・態度等の観点別に学習成果を明示した卒業の認定方針(DP)を5項目として策定している。この認定方針は修学の手引きに明示し、Webサイトに公表するとともに、オリエンテーション等を通じて学生に周知している。卒業の認定はDPと各授業の到達目標の整合性を担保するカリキュラムマップの作成、DP項目に対応して学習到達目標を設定したシラバスによる授業展開と適切な成績評価に基づいて行っている。また、卒業の認定方針のより実践的な職業教育への具体化のために、iCD(i コンピテンシーディクショナリ)をベースとして各専門分野での職種を意識した教育課程を開発するなど継続して改善を行っている。 卒業判定は本校学務課が学科の卒業要件に基づき、卒業判定案を作成、校長が主催する会議の審議を経て、校長が卒業を認定している。
学修支援等

<p>(概要)</p> <p>クラス担任制度を導入し、全学年でゼミナールを通じて学修指導を実施、個人の修学状況を踏まえた個別指導を実施している。特に新生生に対しては、一泊合宿を実施し、将来の職種を見据えた学習へのアプローチとスケジュールを説明している。授業への出席状況は日々、把握し、週間、月間で学生への指導と保護者への出席状況報告等を実施している。また、保護者含めた三者面談を実施する等、学業継続に向けて支援している。前後期終了後には学生保護者に成績、出席状況報告を郵送する等、保護者と連携した学生支援を実施している。</p>
--

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
19人 (100%)	0人 (%)	17人 (89.5%)	2人 (10.5%)
<p>(主な就職、業界等)</p> <p>IT・情報処理分野 コベルコンソフトサービス(株)、(株)アイデス、(株)アルスノヴァ、関西テレビソフトウェア(株)、(株)日本ビジネス開発、(株)ウイズ・ソフトウェア、(株)システムスタッフ、(株)クリオシステム、(株)システム開発研究所、大津コンピュータ(株)、(株)エフ・アイ・ティ、(株)あじよ、(株)ナニワ計算センター等</p>			
<p>(就職指導内容)</p> <p>【卒業前年度】 キャリア教育の一環として、卒業前年度の1年間を通じてクラス担任による就職特別指導の時間枠を設け、自己理解の深化、進路選択における価値観の確立、将来設計の立案等、進路実現のための支援を行うとともに、「就職試験対策」、「履歴書作成」、「面接対策」等の指導を実施している。 就活スタート時の意識づけのための「キャリアガイダンス」をはじめとして、就活力の確認や就活力をアップするための「キャリアブートキャンプ(1泊)」、業界・職種研究のための「業界研究セミナー」、専門分野に特化した「ポートフォリオ・面接指導」等を適切な時期に実施している。</p> <p>【卒業年度】 キャリア支援委員会とクラス担任は、一人ひとりの学生の就活準備状況に応じて順次、内定可能な企業への受験指導を実施している。また、就職支援システムの情報を活用して、各学生の就活状況を日々把握するとともに、「個人別」・「個別」に適切な就職受験指導を行い、確実な内定に結び付けている。 内定可能な企業を学内合同/単独企業説明会へ誘致、また、学校紹介企業を学生に紹介し、学生の企業受験・内定に結び付けている。また、企業訪問を中心とした企業連携を深めることで、学内合同/単独企業説明会への誘致企業や学校紹介企業は、学生数に対応した十分な企業数を確保している。</p>			
<p>(主な学修成果(資格・検定等))</p> <p>基本情報技術者、応用情報技術者、ORACLE MASTER Bronze、C言語プログラミング能力認定試験</p>			
<p>(備考) (任意記載事項)</p> <p>2年生以上を対象とした学内奨学金制度有 特別奨励奨学金制度(20万円・15名) 学業支援奨学金制度(10万円・35名)</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
39人	1人	2.6%
<p>(中途退学の主な理由) 専門分野の学業不振、集団生活への不適応、進路変更（就職・他校への進学）</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>学生支援は学生生活指導委員会、クラス担任を中心に日々の状況を把握し、学習目標の実現に向けて適切な支援をしている。</p> <p>具体的には学生との個別面談、日々の出席状況・成績状況のチェック、授業担当との連携、保護者への連絡と連携を基本としている。これは入学時から就職活動期間、卒業時まで継続され、きめ細かなサポート体制を取っている。</p> <p>精神的な悩みや対人関係がうまくいかない等の問題を抱える学生に対しては、上記の対応以外に専門のカウンセラーが面談を行い、必要に応じて専門機関につなぐといった対応を取っている。</p> <p>そのほかにも女子新入生歓迎会や留学生交流会の開催、あるいは障がいを持つ学生への配慮等、多様な学生が学業をやり遂げることができるよう支援している。</p>		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		情報処理専門課程	IT ビジネス学科 (単位制)	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	62 単位時間/単位	単位時間 83/単位	単位時間 125/単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			208 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人		66人	2人	1人	4人	5人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要)</p> <p>本校では、観点別に学習成果を明示した卒業認定方針(ディプロマポリシー: DP)に対応して各授業科目のシラバスを作成している。シラバスには「学習一般目標」、「授業の概要及び学習上の助言」に加えて、DPに対応した「学習到達目標」と「学修成果の評価方法」を明示するとともに、学生に対し各授業の初回に説明を行っている。「学習到達目標」については(知識・理解)(思考・判断)(態度)(技能・表現)(関心・意欲)の各観点別教育目標に沿って作成された学部 DP に対応した「学生が達成すべき行動目標」として設定している。</p> <p>また、上記の趣旨、記述方法を記載したシラバス作成のためのガイドラインを定め、講師会等を通じて教員に周知している。作成したシラバスは各授業初回に学生に配布するとともに、WEB サイト上で公開している。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <p>学修成果の評価については、学生が達成すべき行動目標である「学習到達目標」の達成度として評価している。評価方法については、授業時間外での学習課題の設定、中間テストの実施、学生の授業への取り組み状況等によって学習意欲の把握を行うとともに、試験、レポート、作品等の方法により総合評価している。評価の実施方法、評価の割合等の詳細をシラバスにおいて明示し、学生が授業に明確な目標をもって臨めるように工夫している。授業科目の成績は100点満点で60点以上を合格とし単位を付与する。成績評価基準は、秀(90点以上)、優(80点以上90点未満)、良(70点以上80点未満)、可(60点以上70点未満)、不可(60点未満)とする。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>課程修了にあたって、学生が修得することが求められている知識・技能・態度等の観点別に学習成果を明示した卒業の認定方針(DP)を5項目として策定している。この認定方針は修学の手引きに明示し、Web サイトに公表するとともに、オリエンテーション等を通じて学生に周知している。卒業の認定は DP と各授業の到達目標の整合性を担保するカリキュラムマップの作成、DP 項目に対応して学習到達目標を設定したシラバスによる授業展開と適切な成績評価に基づいて行っている。また、卒業の認定方針のより実践的な職業教育への具体化のために、iCD(i コンピテンシーディクショナリ)をベースとして各専門分野での職種を意識した教育課程を開発するなど継続して改善を行っている。</p> <p>卒業判定は本校学務課が学科の卒業要件に基づき卒業判定案を作成、校長が主催する会議の審議を経て、校長が卒業を認定している。</p>
学修支援等

<p>(概要)</p> <p>クラス担任制度を導入し、全学年でゼミナールを通じて学修指導を実施、個人の修学状況を踏まえた個別指導を実施している。特に新生生に対しては、一泊合宿を実施し、将来の職種を見据えた学習へのアプローチとスケジュールを説明している。授業への出席状況は日々、把握し、週間、月間で学生への指導と保護者への出席状況報告等を実施している。また、保護者含めた三者面談を実施する等、学業継続に向けて支援している。前後期終了後には学生保護者に成績、出席状況報告を郵送する等、保護者と連携した学生支援を実施している。</p>
--

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
29人 (100%)	2人 (6.9%)	23人 (79.3%)	4人 (13.8%)
<p>(主な就職、業界等)</p> <p>IT・情報処理分野、物流</p> <p>(株)城山グループ、大黒天物産(株)、(株)日本トラフィックサービス、(株)アイスター、(株)イベント21、(株)エフ・アイ・ティ、エクセルコンピュータサービス(株)、(株)カードラボ、栄和工業(株)、スカイ(株)等</p>			
<p>(就職指導内容)</p> <p>【卒業前年度】</p> <p>キャリア教育の一環として、卒業前年度の1年間を通じてクラス担任による就職特別指導の時間枠を設け、自己理解の深化、進路選択における価値観の確立、将来設計の立案等、進路実現のための支援を行うとともに、「就職試験対策」、「履歴書作成」、「面接対策」等の指導を実施している。</p> <p>就活スタート時の意識づけのための「キャリアガイダンス」をはじめとして、就活力の確認や就活力をアップするための「キャリアブートキャンプ(1泊)」、業界・職種研究のための「業界研究セミナー」、専門分野に特化した「ポートフォリオ・面接指導」等を適切な時期に実施している。</p> <p>【卒業年度】</p> <p>キャリア支援委員会とクラス担任は、一人ひとりの学生の就活準備状況に応じて順次、内定可能な企業への受験指導を実施している。また、就職支援システムの情報を活用して、各学生の就活状況を日々把握するとともに、「個人別」・「個別」に適切な就職受験指導を行い、確実な内定に結び付けている。</p> <p>内定可能な企業を学内合同/単独企業説明会へ誘致、また、学校紹介企業を学生に紹介し、学生の企業受験・内定に結び付けている。また、企業訪問を中心とした企業連携を深めることで、学内合同/単独企業説明会への誘致企業や学校紹介企業は、学生数に対応した十分な企業数を確保している。</p>			
<p>(主な学修成果(資格・検定等))</p> <p>秘書技能検定、MOS マスター、日商簿記検定、ビジネス能力検定</p>			
<p>(備考) (任意記載事項)</p> <p>2年生以上を対象とした学内奨学金制度有</p> <p>特別奨励奨学金制度(20万円・15名)</p> <p>学業支援奨学金制度(10万円・35名)</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
64 人	8 人	12.5%
<p>(中途退学の主な理由) 集団生活への不適應、進路変更 (就職・他校への進学)</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>学生支援は学生生活指導委員会、クラス担任を中心に日々の状況を把握し、学習目標の実現に向けて適切な支援をしている。</p> <p>具体的には学生との個別面談、日々の出席状況・成績状況のチェック、授業担当との連携、保護者への連絡と連携を基本としている。これは入学時から就職活動期間、卒業時まで継続され、きめ細かなサポート体制を取っている。</p> <p>精神的な悩みや対人関係がうまくいかない等の問題を抱える学生に対しては、上記の対応以外に専門のカウンセラーが面談を行い、必要に応じて専門機関につなぐといった対応を取っている。</p> <p>そのほかにも女子新入生歓迎会や留学生交流会の開催、あるいは障がいを持つ学生への配慮等、多様な学生が学業をやり遂げることができるよう支援している。</p>		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		情報処理専門課程	ゲーム学科 (単位制)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	62 単位時間/単位	単位時間 57/単位	単位時間 245/単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			302 単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
80人	23人	1人	1人	1人	2人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要)</p> <p>本校では、観点別に学習成果を明示した卒業認定方針(ディプロマポリシー: DP)に対応して各授業科目のシラバスを作成している。シラバスには「学習一般目標」、「授業の概要及び学習上の助言」に加えて、DPに対応した「学習到達目標」と「学修成果の評価方法」を明示するとともに、学生に対し各授業の初回に説明を行っている。「学習到達目標」については(知識・理解)(思考・判断)(態度)(技能・表現)(関心・意欲)の各観点別教育目標に沿って作成された学部 DP に対応した「学生が達成すべき行動目標」として設定している。</p> <p>また、上記の趣旨、記述方法を記載したシラバス作成のためのガイドラインを定め、講師会等を通じて教員に周知している。作成したシラバスは各授業初回に学生に配布するとともに、WEB サイト上で公開している。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <p>学修成果の評価については、学生が達成すべき行動目標である「学習到達目標」の達成度として評価している。評価方法については、授業時間外での学習課題の設定、中間テストの実施、学生の授業への取り組み状況等によって学習意欲の把握を行うとともに、試験、レポート、作品等の方法により総合評価している。評価の実施方法、評価の割合等の詳細をシラバスにおいて明示し、学生が授業に明確な目標をもって臨めるように工夫している。授業科目の成績は100点満点で60点以上を合格とし単位を付与する。成績評価基準は、秀(90点以上)、優(80点以上 90点未満)、良(70点以上 80点未満)、可(60点以上 70点未満)、不可(60点未満)とする。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>課程修了にあたって、学生が修得することが求められている知識・技能・態度等の観点別に学習成果を明示した卒業の認定方針(DP)を5項目として策定している。この認定方針は修学の手引きに明示し、Web サイトに公表するとともに、オリエンテーション等を通じて学生に周知している。卒業の認定は DP と各授業の到達目標の整合性を担保するカリキュラムマップの作成、DP 項目に対応して学習到達目標を設定したシラバスによる授業展開と適切な成績評価に基づいて行っている。また、卒業の認定方針のより実践的な職業教育への具体化のために、iCD(i コンピテンシーディクショナリ)をベースとして各専門分野での職種を意識した教育課程を開発するなど継続して改善を行っている。</p> <p>卒業判定は本校学務課が学科の卒業要件に基づき卒業判定案を作成、校長が主催する会議の審議を経て、校長が卒業を認定している。</p>
学修支援等

<p>(概要)</p> <p>クラス担任制度を導入し、全学年でゼミナールを通じて学修指導を実施、個人の修学状況を踏まえた個別指導を実施している。特に新生生に対しては、一泊合宿を実施し、将来の職種を見据えた学習へのアプローチとスケジュールを説明している。授業への出席状況は日々、把握し、週間、月間で学生への指導と保護者への出席状況報告等を実施している。また、保護者含めた三者面談を実施する等、学業継続に向けて支援している。前後期終了後には学生保護者に成績、出席状況報告を郵送する等、保護者と連携した学生支援を実施している。</p>
--

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
19人 (100%)	0人 (%)	10人 (52.6%)	9人 (47.4%)
<p>(主な就職、業界等)</p> <p>IT・情報処理分野、製造・物流・小売業界 (株)日進工業、アイスター(株)、タイムテック(株)、(株)インターフェイス、吉川運輸(株)、(株)阪南タイムス</p>			
<p>(就職指導内容)</p> <p>【卒業前年度】 キャリア教育の一環として、卒業前年度の1年間を通じてクラス担任による就職特別指導の時間枠を設け、自己理解の深化、進路選択における価値観の確立、将来設計の立案等、進路実現のための支援を行うとともに、「就職試験対策」、「履歴書作成」、「面接対策」等の指導を実施している。 就活スタート時の意識づけのための「キャリアガイダンス」をはじめとして、就活力の確認や就活力をアップするための「キャリアブートキャンプ(1泊)」、業界・職種研究のための「業界研究セミナー」、専門分野に特化した「ポートフォリオ・面接指導」等を適切な時期に実施している。</p> <p>【卒業年度】 キャリア支援委員会とクラス担任は、一人ひとりの学生の就活準備状況に応じて順次、内定可能な企業への受験指導を実施している。また、就職支援システムの情報を活用して、各学生の就活状況を日々把握するとともに、「個人別」・「個別」に適切な就職受験指導を行い、確実な内定に結び付けている。 内定可能な企業を学内合同/単独企業説明会へ誘致、また、学校紹介企業を学生に紹介し、学生の企業受験・内定に結び付けている。また、企業訪問を中心とした企業連携を深めることで、学内合同/単独企業説明会への誘致企業や学校紹介企業は、学生数に対応した十分な企業数を確保している。</p>			
<p>(主な学修成果(資格・検定等))</p> <p>ITパスポート、C言語プログラミング能力認定試験</p>			
<p>(備考) (任意記載事項)</p> <p>2年生以上を対象とした学内奨学金制度有 特別奨励奨学金制度(20万円・15名) 学業支援奨学金制度(10万円・35名)</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
26 人	5 人	19.2%
<p>(中途退学の主な理由) 集団生活への不適應、進路変更 (就職・他校への進学)</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>学生支援は学生生活指導委員会、クラス担任を中心に日々の状況を把握し、学習目標の実現に向けて適切な支援をしている。</p> <p>具体的には学生との個別面談、日々の出席状況・成績状況のチェック、授業担当との連携、保護者への連絡と連携を基本としている。これは入学時から就職活動期間、卒業時まで継続され、きめ細かなサポート体制を取っている。</p> <p>精神的な悩みや対人関係がうまくいかない等の問題を抱える学生に対しては、上記の対応以外に専門のカウンセラーが面談を行い、必要に応じて専門機関につなぐといった対応を取っている。</p> <p>そのほかにも女子新入生歓迎会や留学生交流会の開催、あるいは障がいを持つ学生への配慮等、多様な学生が学業をやり遂げることができるよう支援している。</p>		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		情報処理専門課程	メディアデザイン学科 (単位制)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	62 単位時間/単位	単位時間 33/単位	単位時間 242/単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			275 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人		58人	5人	1人	2人	3人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)	
(概要) <p>本校では、観点別に学習成果を明示した卒業認定方針(ディプロマポリシー：DP)に対応して各授業科目のシラバスを作成している。シラバスには「学習一般目標」、「授業の概要及び学習上の助言」に加えて、DPに対応した「学習到達目標」と「学修成果の評価方法」を明示するとともに、学生に対し各授業の初回に説明を行っている。「学習到達目標」については(知識・理解)(思考・判断)(態度)(技能・表現)(関心・意欲)の各観点別教育目標に沿って作成された学部DPに対応した「学生が達成すべき行動目標」として設定している。</p> <p>また、上記の趣旨、記述方法を記載したシラバス作成のためのガイドラインを定め、講師会等を通じて教員に周知している。作成したシラバスは各授業初回に学生に配布するとともに、WEBサイト上で公開している。</p>	
成績評価の基準・方法	
(概要) <p>学修成果の評価については、学生が達成すべき行動目標である「学習到達目標」の達成度として評価している。評価方法については、授業時間外での学習課題の設定、中間テストの実施、学生の授業への取り組み状況等によって学習意欲の把握を行うとともに、試験、レポート、作品等の方法により総合評価している。評価の実施方法、評価の割合等の詳細をシラバスにおいて明示し、学生が授業に明確な目標をもって臨めるように工夫している。授業科目の成績は100点満点で60点以上を合格とし単位を付与する。成績評価基準は、秀(90点以上)、優(80点以上90点未満)、良(70点以上80点未満)、可(60点以上70点未満)、不可(60点未満)とする。</p>	
卒業・進級の認定基準	
(概要) <p>課程修了にあたって、学生が修得することが求められている知識・技能・態度等の観点別に学習成果を明示した卒業の認定方針(DP)を5項目として策定している。この認定方針は修学の手引きに明示し、Webサイトに公表するとともに、オリエンテーション等を通じて学生に周知している。卒業の認定はDPと各授業の到達目標の整合性を担保するカリキュラムマップの作成、DP項目に対応して学習到達目標を設定したシラバスによる授業展開と適切な成績評価に基づいて行っている。また、卒業の認定方針のより実践的な職業教育への具体化のために、iCD(i コンピテンシーディクショナリ)をベースとして各専門分野での職種を意識した教育課程を開発するなど継続して改善を行っている。</p> <p>卒業判定は本校学務課が学科の卒業要件に基づき、卒業判定案を作成、校長が主催する会議の審議を経て、校長が卒業を認定している。</p>	

<p>学修支援等</p> <p>クラス担任制度を導入し、全学年でゼミナールを通じて学修指導を実施、個人の修学状況を踏まえた個別指導を実施している。特に新生生に対しては、一泊合宿を実施し、将来の職種を見据えた学習へのアプローチとスケジュールを説明している。授業への出席状況は日々、把握し、週間、月間で学生への指導と保護者への出席状況報告等を実施している。また、保護者含めた三者面談を実施する等、学業継続に向けて支援している。前後期終了後には学生保護者に成績、出席状況報告を郵送する等、保護者と連携した学生支援を実施している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
24人 (100%)	0人 (%)	19人 (79.2%)	5人 (20.8%)
<p>(主な就職、業界等)</p> <p>デザイン、WEB、出版、映像業界</p> <p>(株)明和商会、浜友観光(株)、(株)アサヒディード、OSP ゴールドシー(株)、リタワークス(株)、(株)日版プリント、(株)イベント21、(株)ウイルテック、(株)グラフィックス、(株)NON-STANDARD、(株)オオトモ、(株)WORLDNET、(株)セプト・スリー等</p>			
<p>(就職指導内容)</p> <p>【卒業前年度】</p> <p>キャリア教育の一環として、卒業前年度の1年間を通じてクラス担任による就職特別指導の時間枠を設け、自己理解の深化、進路選択における価値観の確立、将来設計の立案等、進路実現のための支援を行うとともに、「就職試験対策」、「履歴書作成」、「面接対策」等の指導を実施している。</p> <p>就活スタート時の意識づけのための「キャリアガイダンス」をはじめとして、就活力の確認や就活力をアップするための「キャリアブートキャンプ(1泊)」、業界・職種研究のための「業界研究セミナー」、専門分野に特化した「ポートフォリオ・面接指導」等を適切な時期に実施している。</p> <p>【卒業年度】</p> <p>キャリア支援委員会とクラス担任は、一人ひとりの学生の就活準備状況に応じて順次、内定可能な企業への受験指導を実施している。また、就職支援システムの情報を活用して、各学生の就活状況を日々把握するとともに、「個人別」・「個別」に適切な就職受験指導を行い、確実な内定に結び付けている。</p> <p>内定可能な企業を学内合同/単独企業説明会へ誘致、また、学校紹介企業を学生に紹介し、学生の企業受験・内定に結び付けている。また、企業訪問を中心とした企業連携を深めることで、学内合同/単独企業説明会への誘致企業や学校紹介企業は、学生数に対応した十分な企業数を確保している。</p>			
<p>(主な学修成果(資格・検定等))</p> <p>CGクリエイター検定、WEBクリエイター能力認定試験</p>			
<p>(備考) (任意記載事項)</p> <p>2年生以上を対象とした学内奨学金制度有</p> <p>特別奨励奨学金制度(20万円・15名)</p> <p>学業支援奨学金制度(10万円・35名)</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
44 人	1 人	2.3%
<p>(中途退学の主な理由) 集団生活への不適応、進路変更（就職・他校への進学）</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>学生支援は学生生活指導委員会、クラス担任を中心に日々の状況を把握し、学習目標の実現に向けて適切な支援をしている。</p> <p>具体的には学生との個別面談、日々の出席状況・成績状況のチェック、授業担当との連携、保護者への連絡と連携を基本としている。これは入学時から就職活動期間、卒業時まで継続され、きめ細かなサポート体制を取っている。</p> <p>精神的な悩みや対人関係がうまくいかない等の問題を抱える学生に対しては、上記の対応以外に専門のカウンセラーが面談を行い、必要に応じて専門機関につなぐといった対応を取っている。</p> <p>そのほかにも女子新入生歓迎会や留学生交流会の開催、あるいは障がいを持つ学生への配慮等、多様な学生が学業をやり遂げることができるよう支援している。</p>		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
総合情報メディア	120,000 円	600,000 円	330,000 円	実習費、施設・設備費
情報システム開発	120,000 円	600,000 円	330,000 円	実習費、施設・設備費
メディアクリエイト	120,000 円	600,000 円	330,000 円	実習費、施設・設備費
情報処理	120,000 円	600,000 円	330,000 円	実習費、施設・設備費
IT テクニカル	120,000 円	600,000 円	330,000 円	実習費、施設・設備費
IT ビジネス	120,000 円	600,000 円	330,000 円	実習費、施設・設備費
ゲーム	120,000 円	600,000 円	330,000 円	実習費、施設・設備費
メディアデザイン	120,000 円	600,000 円	330,000 円	実習費、施設・設備費
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) http://www.oic.ac.jp/about/disclosure.html
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) (1) 学校関係者評価の基本方針 本校の教育活動その他の学校運営について、社会のニーズを踏まえた目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について自己評価を実施・公表することにより、組織的・継続的な改善を図る。また、自己評価の結果に対し、卒業生、関係業界、本校と接続する学校、保護者など学校関係者による評価を実施・公表することにより、自己評価結果の客観性・透明性を高め、また説明責任を果たすとともに、学校関係者の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図る。 (2) 評価項目 「専修学校における学校評価ガイドライン」に対応した以下の項目について評価を実施している。 1. 学校の教育目標 2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画 3. 評価項目の達成及び取組状況 (1)教育理念・目標 (2)学校運営 (3)教育活動 (4)学修成果 (5)学生支援 (6)教育環境 (7)学生募集 (8)財務 (9)法令等の遵守 (10)社会貢献・地域貢献

(11)国際交流

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

(3) 委員の構成

- ①専攻分野に関する企業等の役員又は職員（企業等委員）
- ②保護者
- ③卒業生
- ④専修学校との接続がある学校の関係者

(4) 活用方法

<2018年7月12日実施の学校関係者評価に基づく>

- ・社会で長く活躍できる中堅技術者を養成するため本校が提供する「専門教育」の内容については、企業からの意見集約とITSS、あるいはiCDタスクを活用することによって各学年の到達目標を設定した段階である。開催予定の教育課程編成委員会でも有識者や連携企業から意見を頂く。それらを踏まえて2018年度中に教育内容として具体化するために、2019年度カリキュラムに反映させ実践的な職業教育を充実させていくこととした。

以上の改善方策については、教務委員会にて議論し、さまざまな職種で必要とされるタスク（業務）に対応した実践的な専門スキルを修得させるタスクベースドカリキュラムとして具体化し、現在、実施している。

- ・資格取得においては従来から本校の重点課題として取り組んでいるが、専門分野に関わる高度な資格取得以外にも社会人の基礎力となるOffice関連の資格やビジネスマナーとしての秘書検定等については引き続き専攻に関わらず学生の積極的な受験を促進し、汎用力を習得させていくこととした。これらは専門分野の企業に就職しない場合においても学生のアピールポイントになると同時に在学中の学習モチベーションの向上につながる効果があると考えられる。

以上の改善方策については、教務委員会にて議論し、資格取得プロセスの最適化に向けたフローチャートを学生に提示する等、資格取得への動機づけを強化している。

- ・卒業生就労実態アンケートについては、本校で学んだ内容が現在の仕事にどう活かされているのか、学生時代の経験が社会人としてどう役に立ったのか、といった観点から一層の分析を進めることとした。また卒業生の意見から本校の改善点や不足点を明らかにし、教育活動の改善につなげていくために数年に一度の割合で定期的実施することを検討することとした。

以上の改善方策については、2018年12月に入試広報課にて議論し、過去10年間の卒業生を対象に就労実態アンケートを実施し、雇用形態や職種内容、仕事に対する満足度などの回答結果を分析するとともに、教育課程編成委員会など各種会議で論議し、カリキュラムや就職支援に反映するなど教育活動の改善につなげている。

- ・教職員の学生に対する支援・サポート体制が充実しているという評価を受けた。学生の個別支援としてはクラス担任との定期的な個別面談の実施のほか、就職活動時における個別指導等があり、これらを通じて学生の教職員に対する一定の信頼感が醸成されているが、現代の若者の変化、多様な学生の増加等に対して適切な支援が全校的にできるよう修学支援体制を一層、強化していくこととした。

以上の改善方策については、学生生活指導委員会にて議論し、事例研究を継続して行うとともに学生の特性を踏まえた支援についての研修会等により全教職員の個別指導力の向上につなげている。

学校関係者評価の委員

所属	任期	種別
Pro-X 株式会社	2019/6/1～2020/3/31	企業等委員
株式会社ウイズ・ソフトウェア	2019/6/1～2020/3/31	企業等委員
株式会社 COMET DESIGN WORKS	2019/6/1～2020/3/31	企業等委員
株式会社カガミ	2019/6/1～2020/3/31	企業等委員
株式会社エアーポートカーゴサービス	2019/6/1～2020/3/31	企業等委員
科学技術学園高校	2019/6/1～2020/3/31	接続する学校の関係者
保護者	2019/6/1～2020/3/31	保護者
卒業生、株式会社ナック	2019/6/1～2020/3/31	卒業生
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) http://www.oic.ac.jp/about/disclosure.html		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

<p>(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)</p> <p>専門学校における情報提供等への取組に関するガイドラインを踏まえた情報公開 全て https://www.oic.ac.jp/about/disclosure.html より閲覧可能</p> <p>1. 学校の概要、目標及び計画 2. 各学科の教育 3. 教職員 4. キャリア教育・ 実践的職業教育 5. 様々な教育活動・教育環境 6. 学生への生活支援 7. 学生納 付金・就学支援 10. 国際連携の状況</p> <p>以上、「学校情報」 https://www.oic.ac.jp/about/pdf/doc11_sir.pdf</p> <p>8. 学校の財務 (別途掲載)</p> <p>「貸借対照表」 https://www.oic.ac.jp/about/pdf/doc61_bls.pdf 「資金収支計算書」 https://www.oic.ac.jp/about/pdf/doc62_cfs.pdf 「事業活動収支計算書」 https://www.oic.ac.jp/about/pdf/doc63_cbs.pdf 「財産目録」 https://www.oic.ac.jp/about/pdf/doc64_iop.pdf 「事業報告書」 https://www.oic.ac.jp/about/pdf/doc65_ras.pdf 「監事による監査報告書」 https://www.oic.ac.jp/about/pdf/doc66_aar.pdf 「独立監査人の監査報告書」 https://www.oic.ac.jp/about/pdf/doc67_iar.pdf</p> <p>9. 学校評価 (別途掲載)</p> <p>「自己評価報告書」 https://www.oic.ac.jp/about/pdf/doc21_sar.pdf</p>
--

「学校関係者評価報告書」 https://www.oic.ac.jp/about/pdf/doc22_oar.pdf

以上